

令和5年度
事業報告書



社会福祉法人 邦知会

(目 次)

○社会福祉法人 邦知会	P. 1
○ユートピア広沢・リバーサイド広沢 (全体総括)	P. 3
特別養護老人ホーム ユートピア広沢 (全体)	P. 4
特別養護老人ホーム Aグループ	P. 4
特別養護老人ホーム Cグループ	P. 6
地域密着型特別養護老人ホーム Dグループ	P. 6
ケアハウス リバーサイド広沢グループ	P. 8
医務グループ	P. 9
栄養グループ	P. 9
ショートステイグループ	P. 10
デイサービスグループ	P. 11
居宅介護支援グループ	P. 12
桐生市地域包括支援センター	P. 12
○ケアハウス サンフラワー広沢	P. 14
○養護老人ホーム サンロイヤル広沢 (全体総括)	P. 16
養護 Aグループ	P. 17
養護 Bグループ	P. 18
介護支援グループ	P. 19
医務グループ	P. 19
栄養グループ	P. 20
○ハーモニー広沢・ハートフル広沢 (全体総括)	P. 21
特別養護老人ホーム ハーモニー広沢 (全体)	P. 22
特別養護老人ホーム Bグループ	P. 23
特別養護老人ホーム Cグループ	P. 25
特別養護老人ホーム Dグループ	P. 27
ケアハウス ハートフル広沢グループ	P. 29
医務グループ	P. 30
栄養グループ	P. 30
ショートステイグループ	P. 31
デイサービスグループ	P. 32
ホームヘルプサービスグループ	P. 32
居宅介護支援グループ	P. 33
○グレイス広沢	P. 34
生活支援グループ	P. 34
ホームヘルプサービスグループ	P. 35
定期巡回・随時対応型訪問介護看護グループ	P. 35
訪問看護グループ	P. 36

社会福祉法人 邦知会

令和5年度は、2040年の多元的社会に向け、法人の事業継続性をより確かなものにするために、『希望を形に』を全体スローガンに掲げ、これまで数年をかけて実施してきた様々な検討や取り組みの一つひとつを、希望ある未来に向け「形」にしていく年度として、職員一人ひとりの意識の向上とスキルの向上に取り組みました。

また、12月には蛭間利雄前理事長が逝去し、祖父江啓子新理事長が就任するなど法人として大きな節目を迎えることとなりました。しかしそのような中であっても、この状況を変化と革新の機会と捉え、翌年度に控える制度改正に向け、前向きに事業に取り組んでまいりました。

令和元年からほぼ4年以上に渡り猛威を振るった新型コロナウイルスの流行が収束に向かい、5月から季節性インフルエンザなどと同じ「5類」に変更されましたが、小規模な感染事例は年度を通じて継続し、職員の勤務体制の確保に苦慮した年度でもありました。

個別重点目標の①である「サービス提供関係」については、前年度に引き続き、国が進める「LIFE（科学的介護情報システム）を活用した科学的介護の推進による自立支援、介護予防、重度化防止の推進、フィードバックデータを利用したPDCAサイクルの実行によるケアの質や生活満足度の向上に取り組みました。また機能訓練・口腔ケア・栄養ケアの連携強化と質の評価の推進、認知症対応力の強化、及び本人の意思を尊重した看取りへ取り組み、医療・介護の連携強化、将来の地域の福祉ニーズに対して包括的に対応していくためのソーシャルワーク機能の充実、虐待防止の推進及び、身体拘束廃止に向けた取り組み等も継続しました。

個別重点目標の②である「感染症対策および大規模災害への対応」については、新型コロナウイルスの感染の流行は小規模ながらも継続していたことから、各種感染症の流行を想定したBCP（業務継続計画）の定期見直し及び、感染の流行を想定した訓練の徹底と予防対策を継続し、「アフターコロナ」を踏まえた安定的・継続的なサービス提供に努めました。また防災面においては、大規模自然災害を想定したBCP（業務継続計画）の見直しを行い、法人合同の総合防災訓練および水害対策訓練を実施しました。特に11月の総合防災訓練については、同日に広沢6丁目町会の防災訓練をグレイス広沢ホールを会場として行い、法人職員も訓練に参加させていただくなど、地元町会との連携をさらに深めることができました。

個別重点目標の③である「職員処遇関係」については、加算や補助金による職員の処遇改善を継続するとともに、生産性向上と業務負担軽減を図るためのICT機器等

令和5年度 事業報告

の導入や業務マニュアルの変更等についての検討や、働き方改革として職員が仕事と育児・介護を両立できるための取り組み及びワーク・ライフ・バランスを推進しました。また人事考課制度の適切な運用と各種研修の充実を図り、職員育成システムとしてのキャリアパス表の更新も進めました。

また職員の心身の健康増進への取り組みとして、職員全員を対象にストレスマネジメントについての研修を実施し、仕事上でのストレスへの対処方法について学ぶとともに、胃ろう・たん吸引関係研修の実施や各種研修の受講支援、資格取得を目的とした勉強会等も継続し、職員のスキルアップを図りました。

個別重点目標の④である「地域貢献関係」については、引き続き「群馬県ふくし総合相談支援事業」への参加により、地域の相談・サービスの総合窓口となるよう努めました。またコロナ禍により開催中止となっていた渡良瀬川クリーン運動が再開され、3年ぶりに清掃ボランティア活動を行うことができました。介護職員初任者研修については万全な感染予防対策の上実施し、11名の修了者を送り出すことができました。

地元消防団や災害派遣福祉チームへの職員派遣といった地域貢献活動も継続し、元旦に発生した「令和6年能登半島地震」に対しては、群馬県災害派遣福祉チーム（D-WAT）として法人職員延べ4名を金沢市の1.5次避難所へ派遣し、被災地の支援にあたりました。

個別重点目標の⑤である「法人経営関係」については、令和6年度の介護報酬改定に関する情報収集を進め、加算算定等に向けた準備を行うとともに、サービス利用者確保のための、関係機関に対する営業を強化しました。また設備の更新による施設の長寿命を図るため県の補助金を受け、ユートピア広沢の大規模修繕工事を行いました。

介護人材不足への対応については、3月にインドネシアからの特定技能外国人職員を2名、ネパール人の介護留学生1名を採用しました。また16名入居可能な社宅の整備を行い、昨年度採用の外国人職員を含む9名が入居しました。併せて介護の仕事を若年層に知ってもらうための中学校訪問や、小学生を対象とした職業体験イベント「ミニきりゅう」への参加など、介護の仕事の魅力の発信に取り組みました。

広報活動については、サービス利用者及び待機者の確保のための窓口拡大を図るため、サービス紹介資料の配布や、ツイッター、インスタグラムといったSNSを活用した法人の魅力の発信により他法人との差別化を推進しました。

令和5年度は、光熱水費や物価の高騰等といった逆風もありましたが、職員の努力により無事に年度を終えることができたのではないかと考えます。

これからも邦知会は、法人理念である「他人（ひと）の痛みを我が身の痛みとして感じ、心の通う介護」のもと、職員一丸となり、最大限の努力を重ねてまいります。

ユートピア広沢・リバーサイド広沢（全体総括）

『 あなたの気持ちを大切にします 』

～あなたが望む暮らしのために～

『基本方針』

- ◆ 私たちは、お客様の声を良く聴き、個性や気持ちを尊重して、ご本人の望むより質の高い暮らしが送れるよう支援していきます。
- ◆ 私たちは、『自分で選び、自分で決定出来ることが自立である』とする考え方に立ち、専門性に裏付けされた支援を実践することにより、お客様とご家族が安心していただけるサービスの提供に努めます。
- ◆ 私たちは、積極的に自己研鑽を行ない、柔軟な発想を持って日々変化する物事に迅速に対応できるよう努めます。
- ◆ 私たちは、社会福祉法人の役割として「群馬県ふくし総合相談支援事業」などの公益的な取り組みをはじめとする地域貢献活動や、介護人材の育成、『地域の皆様に必要とされる施設』を目指します。
- ◆ 私たちは、感染症や災害時の対応が求められる中、安全と安心を最優先に考え、安定的・継続的にサービスを提供できるよう努めます。ご利用者ご家族、地域の方々、職員、ユートピア広沢にかかわるすべての人とのつながりをより確かなものとし、『希望を形に』の法人スローガンのもと希望ある未来に向け一層努力をしてみたいと思います。

『総括』

令和5年度は新型コロナウイルスも5類になりましたが、重症化リスクの高い高齢者施設ではこれまで同様に感染対策の適切な実施が求められており、マスクの着用・換気・消毒等感染予防対策を継続しておこなっていました。同時に面会や外出に関する制限を少しずつ緩和し、新型コロナウイルス流行前の生活に近づけるようにも努めております。

施設サービスにおいては、特別養護老人ホーム定員60名中、35名の方が退居されました。その中でも30名の方を施設で看取らせていただいております。最期まで関わらせていただくことの感謝の念と責任を改めて認識し、今後の運営に活かしていきたいと考えております。また新規入居者に関しては、在宅サービスとの連携を密に行うことで、入居までの流れがスムーズに行っております。

在宅サービスにおいては、感染症予防対策を行いながら、快適に過ごして頂けるように環境を整え、ご家族や関係各所との連携を図り、ご利用者に安全安心なサービスを提供してまいりました。

令和5年度 事業報告

地域包括支援センターでは、サロン運営や地域活動への参加、各協議体との災害対策での連携、行政との重層的支援の取り組みなど、より一層地域住民や関係団体との関わりを強めることができたと考えております。

これからもそれぞれのサービスの役割を改めて認識し、施設全体でも質の高いサービスを届け続けることで、ご利用者・ご家族・地域の方々の安心した生活の実現に寄与していきたいと考えます。

特別養護老人ホーム ユートピア広沢（全体）

『基本方針』

- ◆ 職員一人ひとりが知識を共有し、常に多職種で相談し合い、専門性を高め、ご入居者の望む生活を支援します。
- ◆ ICT機器を活用し、変化に柔軟に対応することができる環境、生産性の向上につなげていきます。

『総括』

令和5年度は特養26名、地域密着型特養9名、合わせて35名の退居があり、そのうち特養22名、地域密着型特養8名の方がユートピア広沢で最期を迎え、昨年度同様多くの方を施設で看取らせていただきました。施設ケアマネが中心となり各専門職と連携を図り、知識や情報を生活に反映させたことで、ご入居者・ご家族が望む生活支援につなげることができたと感じています。またICT機器を活用し、状態変化の早期発見につなげることができました。ICT機器を活用することで、同じ情報をタイムリーに確認できることで連帯性が高まり、働きやすい職場環境にもつながると考えます。

来年度はICT機器等の理解を深め、ご入居者の生活の安心、職員の職場環境整備につなげていきます。

特養ユートピア広沢 Aグループ

『ご入居者の笑顔をつくります』

『基本方針』

- ◆ ご入居者の話をしっかりと受け止め、職員同士連携を図り、ご入居者一人ひとりの笑顔につながる支援を行います。
- ◆ 清潔な生活空間と感染予防に努め、ご入居者が快適に過ごせる環境をつくります。
- ◆ 介護技術向上を目指すとともに、業務改善を常に考え実行し、働きやすい職場環境を目指します。

令和5年度 事業報告

『総括』

新型コロナウイルスが5類に引き下げられ、隣のユニットや他部署など、ご入居者同士の交流も再開しました。行事についても一つのテーブルを囲んで皆で集まって交流できるよう様々な行事も行いました。しかしご入居者から希望された外出行事まではまだ踏み出せずにユニット内だけの行事が多くなってしまった事が、課題として残っています。

来年度は継続すべき感染対応をしながらご入居者の希望が叶えられるようご家族をお呼びしての行事や外出行事を実施していきたいと考えています。

サフランユニット

『援助方針』

- ◆ ご入居者の想いを汲み取り、穏やかな生活が送れるように支援します。
- ◆ ご入居者の状態を把握し、統一したケアを実践するため、情報共有と職員連携を行います。
- ◆ ご入居者が快適に過ごせるよう感染予防と環境整備を行います。

『総括』

令和5年度はサフランユニットでは6名のご入居者の入れ替わりや年度途中での職員の入れ替わりもありましたが、情報の共有を随時行っていたため、混乱なく対応することができました。新型コロナウイルスの陽性者が確認された時も、迅速な初期対応や隔離対応を実施し、感染拡大を防ぐことができました。

また設えをグループ内自由に行き来できるように工夫したことにより、気の合う方と好きな場所で過ごすことができることにつながり、職員全体でご入居者のできることに目を向けるという意識の変化も感じられました。

来年度は、関わりの中から得られた情報やL I F Eからのフィードバックの情報を日々のケアにつなげていくことに取り組んでいきたいと考えます。

フリーズアユニット

『援助方針』

- ◆ ご入居者が笑顔で安心して過ごせるように関わりを大切にしていきます。
- ◆ 多職種との情報共有をしっかりと行い、ご入居者の状態に合わせた支援を全員で行います。
- ◆ ご入居者に楽しんで頂ける行事を計画し実行します。

『総括』

令和5年度フリージアユニットでは5名のご入居者の入れ替えがあり、自身の思いを伝えることができるご入居者が増えた事により、ご入居者同士での歓談や他のユニットへ散歩に行くなどの交流が日常的に見られるようになりました。そのため行事も両ユニット合同で行う機会を増やし、とても好評でした。来年度は行事だけでなく日常の関りや設えの工夫し、皆様の笑顔につなげていきたいと考えています。ご入居者同士の交流が増えた為、継続すべき感染対応はしっかりと行い、集団での行事や外出の起案を立て実行にもつなげていきます。

関りの中から得られた情報やLIFEからのフィードバックの情報をどのようにケアにつなげていくか来年度の課題と考えています。

特養ユートピア広沢 Cグループ

『 想いを形にします 』

『基本方針』

- ◆ ご入居者の望む暮らしの実現に向けて、一人ひとりの想いを大切にしていきます。
- ◆ 専門職として積極的に行動し、自律した職員となるようスキルアップを目指します。
- ◆ ご入居者一人ひとりが生活しやすい環境づくりをしていきます。

『総括』

令和5年度は2ユニット体制から1グループ体制への新たな取り組みの1年となりました。職員の入れ替わりがあり慣れない時期もありましたが、常に相談し合い、新しい職員からの意見を積極的に取り入れ、職員2人で相談し合えるグループ体制の強みを生かし、日々の支援につなげ、ご入居者の望む暮らしにつなげることができたと感じています。また新型コロナウイルス感染者を出すことなく過ごすことができた1年でした。感染症対応を通して、職員個々の感染症に対する意識の変化やご入居者の状態変化の気づき、多職種との連携は強化されたと感じます。感染症対策から、今年度も室内での行事がほとんどになってしまいました。一つひとつの行事で笑顔は多く見られ楽しんでいただけましたが、来年度は外出やご家族と思い出をつくる時間を大切にしたい取り組みを行っていきたくと考えます。

地域密着型特養ユートピア広沢 (Dグループ)

『 ご入居者を中心にみんなで連携していきます 』

『基本方針』

- ◆ みんなの連携を深め、ご入居者の気持ちに寄り添い、支援していきます。

令和5年度 事業報告

- ◆ ご入居者が最期まで自分らしく、心地よく笑顔で暮らせるように支援していきます。
- ◆ 専門職として根拠ある介護と丁寧な対応を積み重ね、より質の高いケアを提供していきます。

『総括』

令和5年度は、ご入居者の普段の様子の変化に素早く気づき、ケアの内容がご入居者の生活スタイルや身体の状態に適切なかを図れるよう、タイムリーなアセスメントやモニタリングを行うことに努めました。体調が安定しているご入居者には、個別機能訓練をかねて、短時間でも外気浴や散歩をしていただくなど、外出が難しい状況でも四季を感じてもらうことで小さな楽しみをつくれるよう工夫を重ねました。また変化に気づいた時には、ご本人・ご家族のご意向を確認し、専門職間で相談しながら、適切な支援につなげてきました。今後もご入居者・ご家族の意向を確認し、最期まで安心して生活していただくための支援に努めていきたいと考えます。

サザンユニット

『援助方針』

- ◆ ご入居者の想いや求めていることを実現するため、常に新たな視点を持ち、チームとして取り組んでいきます。
- ◆ ご入居者にとって終の棲家であることを忘れずに、一日一日を笑顔で過ごせる様に関わっていきます。
- ◆ 居心地の良い場所になるよう、環境美化に努めます。

『総括』

総括として、感染対策や予防の観点から、ご入居者・ご家族の方には様々な面でお願いをする一年となりましたが、徐々に安全対策を講じながらご家族との触れ合いも増えてきたと感じています。

またご入居者の方にとってその人らしい暮らしとは何か、安全で安心な暮らしのサポート、食事や排泄、身体面、生活面などの様々な意見をチームで一丸となって出し合いました。特に「気づき」からの行動を速めたことで、タイムリーな対応が実践出来たことは良かったと考えています。

次年度は、必要な感染対策は継続しつつ、ご入居者とご家族が安心できる繋がりを作れるよう、取り組んでいきたいと考えます。

ヒイラギユニット

『援助方針』

- ◆ ご入居者の意向を引き出し、チームで安心して暮らせる支援をおこなっていきます。
- ◆ 専門職としての知識と行動力で、ご入居者の「嬉しい」という言葉や表情を増やしていきます。
- ◆ ご入居者が笑顔で毎日を過ごせるように職員間のつながりを大切にしていきます。

『総括』

感染予防を行いながらのケアや生活のサポートをしっかりと行えた一年でした。感染対策を行うことで、ご入居者・ご家族の方に協力を仰ぐ場面がありましたが、現状に合わせた感染対策の見直しや緩和から、少しずつ元の暮らしに戻りつつあります。

ご入居者の方が笑顔で生活できるサポートを続けるために各専門職が、お互いに意見を出し合いながらチームとして行動できたと思います。次年度もご入居者・ご家族のご意向を確認しながら、最後まで自分らしい生活と満足度を高めていけるケアを目指していきます。

ケアハウスグループ（リバーサイド広沢）

『ご入居者の快適な暮らしをサポートします』

『基本方針』

- ◆ ご入居者がその人らしく生活できるよう「情報を分かりやすくまとめ」「伝達」し「統一した対応」を目指します。
- ◆ ご入居者と一緒に笑顔をつくるため、心と体の健康を第一に考え行動します。

『総括』

令和5年度は新型コロナウイルスの対策を継続していたため、外出等を控えていただく時期もありました。そのため施設の中で生活のリズムを崩さないよう、希望の曜日や時間に入浴ができ、毎日の体操の継続をすることで体の健康につなげ、生活の中でのいんどりや・楽しみという点で毎月行事を行い、心の健康も大切にすることで、ご入居者の笑顔につなげることができたと感じています。また会議を中心に情報をまとめる力をチームで養い、統一した対応につなげることを意識したことで、課題であった他部署との連携やご入居者の状態変化時の迅速な対応につながりました。

来年度も、季節の行事をはじめ、毎回好評をいただいている行事は継続しつつ、新たな内容を取り入れ、楽しみを持ちながらリバーサイドでの生活を送っていただけるよう、取り組んでいきます。

ユートピア広沢 医務グループ

『 あなたの気持ちに寄り添います 』

『基本方針』

- ◆ 体調に合わせた適切な医療を提供し、安らぎのある暮らしを支えます。
- ◆ 一人ひとりの状態に合わせた、専門的な関わり（機能訓練・口腔ケア・褥瘡対策・排泄機能・栄養等）で生活の質を高めます。
- ◆ 最期までその人らしい生活が継続できる様、他職種と協働していきます。
- ◆ 感染症予防対策の周知徹底を行います。

『総括』

施設での暮らしが安心した生活の場となれるよう、ご入居者一人ひとりの体調に合わせた支援を他職種と相談しながら取り組むことが出来ました。

新型コロナウイルス感染症の予防対策についても、昨年度同様に継続して実施することで大きな蔓延を引き起こすことが避けられました。しかし風邪など体調を崩すことがきっかけで状態の低下につながる方もおり、体調を崩されている方の栄養面や水分量の把握だけでなく、普段と違った変化にいち早く気付けるために、全身状態を診る観察力や状態報告の大切さについて、来年度の課題として取り組んでいきたいと考えています。

またご入居者の体調維持につながるための機能訓練、美味しく食事を食べるための口腔機能の管理、皮膚状態など全身ケアの徹底、皮膚トラブルを予防し褥瘡「0」を継続できるようスキンケアを実施することで、ご入居者の生活の質が保てるよう働きかけてきました。状態変化時は、嘱託医師への状態報告を密に行い、適切な治療につながるよう連携を図ることができました。最期を迎える場所を施設と望まれている方も多くいらっしゃいました。ご入居者やご家族が安心できる関わりや対応を行うことが気持ちに寄り添う支援と考え、来年度も取り組んでいきます。

ユートピア広沢 栄養グループ

『 食を通じて、笑顔と健康を 』

『基本方針』

- ◆ ご入居者・ご利用者、一人ひとりの嗜好や健康状態に合わせた食事作りに努めます。
- ◆ 旬の食材や伝統行事を大切にし、美味しさや食事の楽しみを感じていただきます。
- ◆ 厨房委託業者・施設職員と協力し、献立作成や食事の提供方法、衛生面に注意を図りながら、『安全でおいしい食事・健康を維持できる食事』を提供します。

『総括』

一人ひとりの嗜好や健康状態に合わせた食事が提供出来るよう、日々のミールラウンドや多職種との情報交換・共有を行い、個々の状態把握に努めてまいりました。日々変化する体調や状態に迅速に対応出来るよう、日頃から各部署と連携を密にとるよう努めてまいりました。今後もその方にとって適切な食事が提供出来るよう、日々の情報交換・連携を大切にしていきます。

旬の食材を使用し、季節感を楽しんでいただける食事の提供を行いました。また、季節の行事、伝統行事にそった献立作りを心がけました。郷土料理の提供では、毎月楽しみにされている方も多く、話題のきっかけにもなっています。日常の食事、季節の食事、特別な日の食事など、メリハリのある食事提供を心がけ、彩りや盛り付けの方法でも食事を楽しんでいただけるよう努めてまいりました。

3施設共通献立は好評です。献立内容や提供量、提供方法等、日々の課題・問題点を厨房職員と共有し、次回にむけての改善方法を随時協議してきました。

食事の役割は身体の維持・健康の維持だけでなく、季節の移ろいを感じたり、楽しみを感じたり、心を豊かにしたり、と多岐にわたります。

食材、光熱費高騰が続く中ですが、食事が楽しみになるような献立の作成、食材の使い方・組み合わせの工夫、見た目・彩りの心配りで、これからも安全で美味しい食事・健康を維持できる食事、そして笑顔になれるような食事を提供出来るよう努めてまいります。

ユートピア広沢 ショートステイグループ (Bグループ)

『 快適な時間を提供します 』

『基本方針』

- ◆ ご利用者の情報を共有し、一人ひとりに合わせた個別の支援を部署職員で考え、根拠をもった関わりをしていきます。
 - ・ ご利用者一人ひとりに合わせた関わりをしていきます。
 - ・ ご利用者に対しては丁寧な言葉遣いで接します。
- ◆ 居心地の良い環境作りをしていきます。
 - ・ 居室やリビングの定期的な掃除や消毒を行い、安全で快適に過ごせるよう居室環境を整えていきます。
 - ・ ご利用者の要望に沿った行事を企画し、職員とご利用者が一緒に楽しめる催しにしています。

『総括』

今年度は口頭やPCでの申し送りを通してご利用者の情報を共有する事が出来ました。しかし職員を集めて支援について議論する場を作る事が難しかったので、来年度は少人数でもその場にいる職員での協議を行っていきたいと考えます。

快適な環境作りについては、担当制「リネン交換の見える化」を意識し、皆が分かる表を作り実施する事で、掃除等の実施漏れがない体制をつくることができました。

行事については、小規模であっても誕生日会やおやつ行事を行うことで喜んでいただけたので、来年度もご利用者の意向に沿ったものや、喜んでいただけるものを考え実践していきます。

ユートピア広沢 デイサービスグループ

『 楽しみを一緒に見つけよう 』

『基本方針』

- ◆ ご利用者、ご家族、関係事業所に安心してご利用いただけるよう利用中の様子や取り組みの進捗状況をお知らせします。
- ◆ 職員の介護技術向上のための勉強会等を行い、より質の高いサービス提供を目指します。
- ◆ 機能訓練指導員による専門的な運動や各種トレーニング器具による多彩なメニューを、ご利用者の状態や希望に合わせ提供いたします。
- ◆ 季節を感じる行事、身体の痛みや疲れを癒してくれるリラクゼーション機器など、幅広いバリエーションをご用意し、心と体の癒しと楽しみを提供いたします。

『総括』

令和5年度は、マンネリ化防止対策を実施し、ご利用者が過ごされるホールの環境（各種機材、配置、飾り物など）を変え、新鮮な気持ちで過ごせるよう対応できました。そして、カフェのコーナーも新設し、利用時には特別なメニューの日を設けたり、ピアノの生演奏も行いながら癒しの時間を過ごして頂いております。

運営面では、新型コロナウイルスは5類になりましたが、通所サービスでは引き続き感染対策の適切な実施が求められるため、体調チェックの方法を変えたり、各関係者への連絡を迅速に取りあうことで、大きな感染拡大もなく対応できました。前年度と比較し、ご利用者の登録数が増え、ご利用者の口コミからの利用や新たな居宅介護支援事業所との関りも増えてきました。

来年度は、口腔機能向上への取り組みを強化し、機能訓練の内容の幅を広げ、今年度課題であった関係機関や地域へのPRも積極的に行い、より多くの方に選ばれるデイサービスを目指していきたいと考えます。

ユートピア広沢 居宅介護支援グループ

『 信頼・協働・専門性 』

『基本方針』

- ◆ 地域の頼れる相談窓口となれるようご利用者やご家族、関係機関との信頼関係を築いていきます。
- ◆ グループ内連携を基盤に法人内外の多職種との連携を図り、ご利用者、ご家族と共にその方に適した支援を行います。
- ◆ 専門職として必要な時期に必要な提案を行えるように自ら情報収集に努め学ぶ姿勢で取り組みます。

『総括』

年度初めは新型コロナウイルスが5類移行となりましたが、感染者はまだ多く、引き続き十分な感染対応を意識しての対応に努め、ご利用者やご家族の不安に寄り添い情報提供や調整をしてきました。日々の申し送りや定期的なミーティング、会議でグループ内の情報共有を続け、担当職員不在時にも迅速な対応ができ、不安定な時期を乗り切れたと考えます。来年度の居宅事業所統合に向け業務もより慌ただしい状況でありましたが、引き続き変化に柔軟に対応し、地域の頼れる相談窓口であり続けたいと思います。

地域包括支援センター ユートピア広沢

『 地域と繋がる 』

『基本方針』

- ◆ 地域の団体や関係機関等との連携を図り、地域の課題に取り組みます。
- ◆ アウトリーチを増やし、住民と関わり支援することで、地域との繋がりを深化します。
- ◆ 地域ケア会議等を活用し他機関との連携を強化します。

『総括』

今年度は地域での活動が再開され、高齢者のサロンも新型コロナウイルス前の状況に戻りました。介護予防及び認知症支援の一環として、オレンジカフェや高齢者サロンに参加し運営を支援してきました。包括が運営するサロンは、会場をグレイス広沢として参加者の方に邦知会を身近に感じていただけるようにし、現在も継続しています。

また、今年度は地域づくりで最も重要である協議体が13区で発足し、これに参加しました。今後は関係機関と地域とで協議を重ね、災害発生時の備えや連携について

令和5年度 事業報告

検討していきます。防災訓練は、昨年に引き続き13区では町会単位で行われたものも含め、全て参加しました。自治会や地域の方々に包括職員の顔を覚えていただくことができ、出先で声をかけていただくなど、周知の成果が現れています。11区は、協議体に向けた動きや、防災訓練等も現状行われていませんが、民生委員主体でのサロン等には参加し、介護予防の取り組みを行いました。

総合相談においては、複合的な課題で支援困難なケースが年々増加しているため、関係機関と連携して支援を行っており、必要に応じて地域ケア会議を開催し課題解決を図ってきました。

これからもアウトリーチを念頭に置き『地域とつながる』をテーマに地域づくりや介護予防、包括的支援体制の強化に取り組んでまいります。

ケアハウス サンフラワー広沢

『 快適な生活と安全を 』

～一人ひとりの想いに寄り添い丁寧・迅速な対応～

『運営方針』

- ◆ 法人理念である「他人（ひと）の痛みを我が身の痛みとして感じ、心の通う介護」に基づき、ご入居者の誰もがお互いの人格を尊重し、支え合い、生き生きと生活できるよう支援します。
- ◆ 住み慣れた場所で、ご入居者お一人おひとりの思いを実現できるようご本人の意向に合わせた自立支援を追求し、生活満足度の向上を目指します。
- ◆ 地域、関係機関、事業所と連携し、感染症や災害への対応を万全なものとし、ご入居者、ご家族の安心・安全なサービスの確保に努めます。
- ◆ 自己研鑽を行い、柔軟な発想で変化に対応できる力の育成に努めます。

『基本方針』

- ◆ ご入居者が安心して生活が出来るように、多職種・他部署と連携を深め、日々の状態把握に努め、状態変化に早期発見が出来るようにします。
- ◆ ご入居者の様々な状況や背景を把握し、生活の希望を踏まえ、サービスを適切にご利用できるよう支援していきます。
- ◆ ご入居者やご家族、地域の方々からのご相談やご要望には、丁寧かつ迅速に対応するよう努めます。
- ◆ 感染・災害対策に十分配慮しながら、日々の暮らしが楽しめるように、サービスの提供を致します。
- ◆ ご入居者の身体的・精神的実態を的確に把握し、ご家族やかかりつけ医と連携し、疾病予防に努めます。

『総括』

新型コロナウイルスが5類となり、面会対応も緩和し、居室へご案内できる期間もありました。しかし、新型コロナウイルス・夏季にもインフルエンザの流行、そして冬季にもそれぞれに流行が見られたため、面会の制限を再びせざるを得ない状況もありました。館内においては、ご入居者の新型コロナウイルス感染もありましたが、感染対応を確認しながら行った結果、拡大することなく収束をすることができました。感染症対応についても、ご入居者・ご家族のご理解・ご協力をいただけていることを感じております。

施設行事では、計画をしておりました外部の慰問行事について検討しましたが、地域の感染状況を考え見送りとさせていただきます。ただ夏季には、毎年行う季節行

令和5年度 事業報告

事のかき氷イベントは行うことができ、皆さんの笑顔を見ることができました。皆さまの表情やご意見を見ますと、季節の行事やイベントといった楽しみも必要だと感じました。

オープン当初からご入居されているご利用者の心身の状態に変化も見られ、介護度の見直しや専門医への受診、新規介護保険申請のお手伝いなど個々に行い、その状況にあった支援につなげることを行いました。そこにもご家族の協力があったからこそ、医療や介護へつなげてくれたのだとも感じました。今後もお入居者・ご家族とのコミュニケーションを大切にし、ケアハウスの運営についてのご理解ご協力をいただきながら、安全安心な生活を提供していきたいと思えます。

養護老人ホーム サンロイヤル広沢（全体総括）

『元気で、楽しく、心豊かに』

～一人ひとりが望む暮らしを実現するために～

『運営方針』

- ◆ 法人理念である「他人の痛みを我が身の痛みとして感じ、心の通う介護」に基づき、ご入居者がいつまでも「元気で、楽しく、心豊かに」生活できるよう、根拠のあるケアをさらに進め、ご利用者お一人おひとりが望む質の高い暮らしを実現するための「伴走型自立支援」に取り組みます。
- ◆ 新しい生活様式に配慮しながら、安心して豊かな生活を送れるように支援します。また、ご入居者の身体機能の維持向上を図るための運動プログラムや、余暇活動を充実させるための各種クラブ活動を実施します。
- ◆ 大規模災害発生時における業務継続を想定し、入居者の安心安全を最優先した備えに取り組みます。
- ◆ 外部サービス利用型特定施設として、ご入居者の意向のもと、適切に介護保険のサービスをご利用いただきながら、安心安全で自立した生活を営むことができるよう支援します。また介護保険サービスをご利用されないご入居者に対する生きがいづくりにも引き続き取り組みます。
- ◆ 近年の多様化するご入居者の支援ニーズに適切に対応するため、措置機関や医療機関、その他地域の関係機関等との連絡調整及び連携を密に行うことにより、施設としてのソーシャルワーク機能を強化します。
- ◆ 職員の専門性及び資質の向上を図るため、各種委員会活動や研修会等への参加、勉強会の実施等を積極的に推進します。また、職員間の協力・連携を更に図りながら、明るく働きやすい職場作りを進め、ご入居者・職員ともに笑顔でいられる施設を目指します。
- ◆ 養護老人ホームを取り巻く状況が変化し、求められている役割も多様化する中、今年度の法人スローガン「希望を形に」のもと、地域のセーフティーネットとしての養護老人ホームの役割も踏まえ、希望ある未来に向けて地域に必要とされる施設を目指した具体的な取り組みを形にします。

『総括』

令和5年度は、新型コロナウイルスが「5類」に移行されましたが、ご高齢者は重度化リスクが高いことから、マスクの着用・手指消毒・定期的換気等の感染予防対策は継続させていただきました。今年度もご入居者・職員ともに新型コロナウイルス感染症の陽性者は出てしまいましたが、感染拡大防止のための対応に取り組むとともに、嘱託医との連携のもと施設内での療養に関しての看護・介護もさせていただきました。

令和5年度 事業報告

今年度も措置入居者の減少傾向は続いております。空床を利用し養護老人ホームの機能を有効活用するために、昨年度より開始した契約入所は、今年度も利用希望者が多く、延べ4,996日で平均13.7人のご利用がありました。お一人での生活が不安となり長期で利用される方や暑い期間・ご家族の入院期間・ご本人の退院後のリハビリ期間等、短期間でご利用をされる方も多くいらっしゃいました。他施設の入居を待つ間のご利用もあり、サービスのつなぎ役としての機能も果たしております。

また、ご入居者は、重度の方が増えたため、重度の方への対応（看取り期を含む）についても強化し、介護保険の外部サービスを利用しながら安心して生活していただけるよう、サービス利用内容や職員体制の見直しを行い外部サービス利用の充実を図り、住み慣れた環境で1日でも長く生活していただけるように努めました。

措置入居者の減少傾向が続き、更に重度化が進んでいる状況も続いているため、今後のサービス提供体制等について、新たな検討が必要となってきております。

ショートステイについては、居住環境の悪化、虐待からの保護や体調管理面や栄養管理面の不安により在宅での生活が困難となったケースなど、多様な事由による受け入れを行い、延べ1,030日の利用受入れとなりました。

今年度も前年度同様、生活保護受給ケースや居住環境の悪化、医療ニーズが高いケース、又はそれぞれが複合したケース等、入居理由は多岐にわたっており、個々のケースに対してのより細やかな支援を行うため、行政をはじめとする各関係機関との連携・協議を密に行いながら、ご入居者が施設で安心して生活できるよう対応してまいりました。

身体機能低下の予防対策については、昨年度まで感染予防のため実施を見合わせていた専門家による3B体操、音楽療法を再開いたしました。また、外出制限も緩和し、屋外への散歩や近隣への買い物・公共交通機関を利用しての外出等も増えました。今後は心身機能低下の予防や維持・向上が図れればと考えます。

感染予防対策に配慮しながらも、コロナ禍前の生活に近づけるように努め、ご入居者がいつまでも「元気で、楽しく、心豊かに」生活していただける施設を目指し、職員が一丸となって努力してまいります。

養護サンロイヤル広沢 Aグループ

『 ご入居者が帰りたい家に 』

『基本方針』

- ◆ エビデンスを明確にし、統一したケアを行います。
- ◆ 専門職として、正しい知識を身に付けます。
- ◆ ご入居者が最期まで安心して過ごせる環境を作ります。

『総括』

今年度は、統一したケアをすすめるための取り組みをおこなってきました。しかし、未だ課題が残っているため、今後もしもご入居者個々のケアプランの内容について職員間で理解にブレが生じないように随時、確認をする機会を設け統一したケアに繋げていきたいと思っております。

また、グループの職員全員を対象とした勉強会を開催し、専門職としての知識向上を図りました。途中、人員不足や、感染対応などで、開催出来なくなってしまいましたが、次年度も継続していきたいと思っております。

今年度も施設で看取った方、入院先で亡くなられた方も含め、多くの方の振り返りをさせて頂きました。施設での看取りに関しては、部署間を越えた協力体制を作っていきたいと感じます。

グループ内のご入居者の重度化がすすみ身体介護が占める割合が全体的に高くなり、ご入居者の食事摂取のペースや、体力の減少からの日中の傾眠傾向等、全ての生活リズムが、既存の時間枠での対応が難しくなっています。その日の予定に合わせた人員の割り振りや、1日の時間枠の整理が急務となっています。

養護サンロイヤル広沢 Bグループ

『お互いの笑顔の為に』

『基本方針』

- ◆ ご入居者の尊厳を尊重し、QOLの向上を支援します。
- ◆ 心身共に健康になれるように、運動を促しADLの維持向上に努めます。
- ◆ ご入居者が笑顔で過ごせるように、しっかりと相談できる環境作りに努めます。
- ◆ 現状にとらわれず、サービスの質の向上を目指し、専門職として責任ある行動をします。
- ◆ 最期まで住み慣れた環境で過ごせるように、支援します。

『総括』

入居者の重度化がすすむ中で、急な状態変化などに伴う事故リスクに対し安全に過ごしていただくための相談・検討を優先的にすすめてまいりました。

また、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの感染拡大もあり、その対応に追われる年でもありました。しかし、部署内で感染対応の振り返りを重ねる事で、安心して療養をしていただくための感染時の対応を職員間で共有する事が出来ました。

令和5年度より、おやつ前体操や3B体操、軽スポーツクラブなどを再開し体を動かす機会を増やしました。外出機会が減り入居者の運動機能の低下も見られる中で参加される方には好評をいただき、来年度も継続して体を動かし楽しめる機会を提供して行ければと考えています。

養護サンロイヤル広沢 介護支援グループ

『 希望ある明日のために 』

『基本方針』

- ◆ ご入居者が安心して自立した生活が営めるよう、ご入居者に寄り添い、ご入居者の想いをケアプランに反映します。
- ◆ ご本人の意思及び人格を尊重し、常に相手の立場に立ったサービス提供に努めていきます。多職種と連携しながら生活感のあふれる質の高いサービスを提供できるようにします。
- ◆ 業務の見直しを定期的実施し、無駄を省略して、業務の効率化を図ります。

『総括』

ご入居者一人ひとりの状態や希望に合わせた個別ケアプランを作成し、定期的に見直しを行ってまいりました。日々の情報収集と観察を通じて、ご入居者の変化を早期に察知し、迅速に対応することを心がけました。また、各部署との連携を強化し、サービス導入時はご入居者の情報を積極的に収集し、サービス提供の改善点や満足度を確認するなどサービス提供における質の向上に努めました。これにより、ご入居者の満足度は高く、安心して生活できる環境を提供できたと考えています。

一方で、ご入居者の重度化にともない、新規のご利用者や状態変化によるプラン変更の増加等による、業務負担の増加といった課題もありました。これに対処するために、各グループ間の連携を強化するとともに、業務分担や手順の見直しをおこないました。また、新型コロナウイルスとインフルエンザの流行による感染拡大を防ぐため、サービス内容を一部変更し対応いたしました。

今後も、サービスの質の向上に向けて、自己の研鑽に励み、チーム全体での学びの機会を活用していく必要があります。総じて、基本方針に基づいた取り組みを通じて、入居者の生活の質を向上させる努力を継続してまいります。課題に対処しながら、チーム一丸となって良質なサービス提供を目指してまいります。

養護サンロイヤル広沢 医務グループ

『 生活を支える看護 』

『基本方針』

- ◆ ご入居者が安心した気持ちで生活ができるように、お身体の事や病気についての心配事や相談事について、お話を伺って対応してまいります。
- ◆ 嘱託医はじめ多職種と連携し、疾病の早期発見や治療への支援を行ってまいります。

『総括』

ご入居者の希望を尊重し、安心した生活を提供するため、多職種と連携し、疾病の早期発見や適切な治療を支援しました。ご入居者との信頼関係を築きながら、日常の状態や体調変化を把握し、定期的な健康管理を行いました。また、感染症対策に関しては、マニュアルに則り施設内感染の蔓延を防止する対策を実践し、新型コロナウイルス感染症5類移行後も対策を継続しています。

ご入居者の健康状態に応じた医療提供につなげるため、日々のカンファレンスでは主に体調不良者の状態確認を行い、早期の対応をすすめました。また、将来的な治療方針や看取りの方向性などご本人やご家族のご意向を確認し記録に残しました。その上で医師への相談や指示を受け、また生活相談員を通じてご家族の意向を確認し、通院の際も治療や検査をスムーズに受けることができました。看取りケアにおいては、振り返りを行い、意見提案を次のケースに活かすことで、施設全体のケアの質を向上に向けてまいりました。今後も継続していきたいと思えます。

養護サンロイヤル広沢 栄養グループ

『心と身体に栄養を』

『基本方針』

- ◆ ご入居者の心身の自立への援助を「食」を通して行い「健康づくり・疾病予防」を目指します。
- ◆ ご入居者ひとりひとりの健康状態や嚥下状態に合わせた食事提供に努めます。
- ◆ 給食の提供は厨房委託業者と連携を図り、安心・安全な食材の確保と衛生管理に努めます。

『総括』

令和5年度は「心と身体に栄養を」を掲げました。ご入居者の嗜好や今までの食生活など、お話を聴いたり普段の食事の様子を見たり、少しずつですが意識して取り組みました。好きなものは食べたい、という気持ちを尊重し、どうしたらそれに近づけるか、今後も考えていきたいと思えます。

嚥下状態の低下による食形態の変更が、昨年度より多く見られました。また、新規入居・退院後の食事内容に留意する必要がある方が増えました。施設と厨房がお互いどこまで対応できるか、相談を重ねてきました。

物価高騰により献立や食材の変更を行い、最終的に予算内に収めることができました。ご入居者の楽しみを損なわないよう、新しいイベント食も視野に入れていきたいと思えます。

ハーモニー広沢・ハートフル広沢（全体総括）

『 寄り添いながらの個別援助 』

～自律し、成熟した専門集団を目指して～

『運営方針』

- ◆ 法人理念、及びハーモニー・ハートフル広沢の『寄り添いながらの個別援助』の理念に則り、お客様の想いをよく聴いて、『最後まで自分らしく、自分が望むように暮らす』ことができるよう、日々関わらせていただきます。
- ◆ それぞれの専門職が自身の持つ役割や多職種との連携をより強化し、サービスの質の評価やデータの活用、ICT導入の取り組み等を積極的に行いながら、エビデンスのある高品質な（生活満足度の高い）サービスの提供を実践します。
- ◆ 厳しい課題が山積する社会環境においても、希望ある未来の実現のため、柔軟且つ新しい発想を持ち、自らが変化する事を恐れずチャレンジしていきます。
- ◆ 今年度の『希望を形に』の法人スローガンのもと職員全員一致団結し、つながりや連携をより強化しながら、新しい発想と柔軟な行動力で『地域に必要とされる施設』を目指します。

『総括』

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症になり、一般的には感染予防対策や感染時の取り扱いが緩和されました。しかし、感染時の重症化リスクの高い高齢者施設においては、引き続き同じ感染対策が求められていました。ハーモニーでは、ご入居者とご家族とのふれあいの機会を作りたい、少しでも今までの生活に戻していきたいとの思いから、感染状況に合わせて面会場所や面会時間の緩和、外出や行事、ご家族懇親会などの再開を徐々に進めてまいりました。

また、高齢者施設での感染症対策を徹底するために、ご利用者ご家族に多くのご協力を頂き、職員一丸となって感染予防対策に取り組めたことで、各サービスともに感染症が発生しても最短での終息に繋げることが出来ました。

希望ある未来へ向けて、『介護現場におけるICT機器の導入』や、『科学的介護情報システム（LIFE）』についても進めてきましたが、まだまだ取り組みの途中といえます。法人全体で進めているICTを活用した、生産性の向上についてより具体的な内容を検討するとともに、今後国から示されるLIFEのフィードバックについて、ご入居者の支援（ケアプラン）に適切に反映することができるよう、具体的なシステムを構築していきます。

施設サービス部においては、特養だけでなく、特定ケアハウスにおいても、看取り支援を行わせていただきました。日頃からケアプランを中心としたカンファレンスを開催し、ご面会時に日々の様子をお伝えしていくこと、多職種でご入居者の思いに寄

令和5年度 事業報告

り添う支援を行うことで、特養21名、ケアハウス2名のご入居者に最後まで安心感を持って看取らせていただきました。

在宅サービス部においては、各サービスの連携をより強化できた一年でした。一人ひとりのお客様が持つ各サービスの目的を、それぞれの専門職種がしっかり捉え、お客様のニーズや想いに添ったサービス提供に努めました。そして、在宅サービス間で情報を共有することにより、急な対応やサービス利用時においても、安心感を持って多くのお客様にご利用していただくことができました。

ハーモニーでは令和5年度もインドネシアからの外国介護職員の受け入れを行い、現在5名の職員が勤務しています。文化の異なる新しい環境でも、何事にも明るく、積極的に取り組む新しい仲間の活躍は、日本人職員に多くの良い刺激を与えてくれます。また、業務内容や記録の整理など、業務の見直しなどにもつなげる事ができました。

私たちが開設時より大切にしている「地域の皆様とのふれあい」については、新型コロナウイルスの影響をいまだ受けていますが、「オレンジカフェけやき」の活動も、今年度は開催が定着しました。今後も「地域とのふれあいや、つながり」が少しでも多くなるような取り組みを行いながら、『地域に必要とされる施設』を目指し努力してまいります。

特別養護老人ホーム ハーモニー広沢（全体）

『生活満足度の向上と新たな変化への準備』

『基本方針』

- ◆ ICT機器の活用やLIFEによるPDCAの実践を行い、ご入居者の生活満足度向上を目指します。
- ◆ 職員間の連帯力を強化し、働きやすく、変化に柔軟に対応できる職場を作ります。

『総括』

令和5年度は昨年度を上回る24名の退居がありましたが、21名のご入居者を施設で看取らせて頂き、重度化が進む中でも特養としての十分な役割を果たすことができました。日々の支援においても、ご入居者・ご家族の満足度にフォーカスし、多職種での連帯力を発揮しながら、専門性を活かしたケアを行うことができました。また、合わせてICT機器の活用や業務改善を進めていくことで、生産性について意識した運営を行うことができました。

新型コロナウイルスが5類感染症となったことから、面会やカンファレンス開催などご家族と直接会う機会が増えた為、以前のようなご家族との関係を築くことに注力して来ました。引き続き居室の環境整備や面会時の状態報告など、職員一人ひとりが意識的に行っていく必要があると考えます。

令和5年度 事業報告

L I F Eにおいてはフィードバックの活用が課題となっております。定期的な計画作成において、より情報を活用することができる方法等、具体化していくことが必要であると考えます。また、来年度は介護報酬改定の年度である為、変化に柔軟に対応し、情報共有・連携を意識した運営を行ってまいります。

特養ハーモニー広沢 Bグループ

『 温もりを共に感じて 』

『基本方針』

- ◆ ケアの状況について定期的に評価する機会をもち、ご入居者の生活課題を解決してまいります。
- ◆ 見守りセンサー等のICT機器を活用し、安心して過ごせる住みやすい環境をつくりまします。

『総括』

令和5年度は、面会や外出等の対応も徐々に緩和され、居室面会が可能になったことで、ご入居者とご家族が触れ合えるようになり、皆さんの笑顔が増えた1年でした。ユニット職員もご家族と直接お話をさせていただける機会が増え、関係づくりがしやすくなりました。今後はさらに関係を深めていけるように、取り組んでまいります。

ICT機器を使用した安心して生活できる環境づくりは、ご入居者の身体状態や生活習慣等を考慮しながら、グループ内で必要なご入居者を見極め、使用しました。また、新規ご入居者に使用することで、生活リズムを把握することができ、事故防止にもつながり、今後もICT機器を活用し、安心・安全に生活できる環境づくりをすすめてまいります。合わせて、ご入居者が自分の居場所として感じられる自分らしい居室環境づくりも引き続き、行ってまいります。

今年度は、7名のご入居者の看取り支援をさせていただきましたが、ご入居者とご家族が最期まで安心して過ごすことができる様に、ご意向を伺いながら、変化に合わせて、丁寧に対応することができました。今後も多職種で連携して、ご入居者、ご家族の気持ちに寄り添ったケアを続けてまいります。そして、今まで以上に職員一人ひとりが積極的に意見を出し合い、連携を強化することで、チーム力を高め、ご入居者の変化に合わせたケアの内容や、業務の見直しを柔軟に行い、職員にとっても働きやすい環境をつくってまいります。

トランペットユニット

『援助方針』

- ◆ 毎日のお声掛けやふれあいを通して、ご入居者の小さな変化に気づき、多職種からなるチームで原因を探求し、課題解決を行います。

令和5年度 事業報告

- ◆ 職員は互いを認め、尊重し合い、協力し合いながらスキルアップを目指します。
- ◆ 利用者、家族とのコミュニケーションを通じて意向に沿った支援を、生活の中で実施します。
- ◆ 福祉用具の点検を定期的に行い、多職種との連携、職員間での情報共有を図っていきます。

『総括』

年間計画で予定していた行事は、概ね予定通り実施することができました。感染症対策等により勤務変更もありましたが、日程や内容を一部変更しながら柔軟に対応し、ご入居者に楽しんでいただくことができました。特に室内行事が多い中、8月に屋外での花火行事は、ご入居者の笑顔が多くみられ、実施することができて良かったと感じています。今後のご入居者のご意見を伺いながら、楽しんでいただける行事を行います。

今年度は、ご入居者の入れ替えが多くありましたが、職員がゆっくりとご入居者に向き合える時間を多くするよう心掛けました。また、コロナ感染症が5類になり面会が居室でできるようになった為、ご入居者だけでなく、職員もご家族とコミュニケーションをとる機会が増えました。

職員の連携に関しては、気づきや相談等、お互いに声を掛け合うことができた為、多職種で情報共有することができました。これからも職員のつながりを大切にしながら、ご入居者が笑顔で過ごせるユニットを目指していきます。

バイオリンユニット

『援助方針』

- ◆ ケアデータの数値と、実際のご入居者の様子から、アセスメントをしっかり行い、根拠のあるチームケアを行います。
- ◆ 職員は、ご入居者の課題解決に向けて情報共有と対話を重視し、ケアサービスの過程を共有します。
- ◆ ご入居者の使いやすさに配慮した居室の設えを提案し、定期的に整理整頓を行いながら暮らしやすい環境をつくります。
- ◆ 職員は、ご入居者の日課を大切に、望む暮らし方や自立支援につなげます。

『総括』

今年度、ご入居者の入れ替わりは2名となり、比較的穏やかな1年でした。ご家族に面会時や電話でもこまめに生活の様子や体調等をお伝えしながら、ご意向を伺うことで、質の高い看取りケアにつなげることができたと感じています。担当職員をはじめとするユニット職員一人ひとりが、ユニット会議だけではなく、日常の細かな変化

令和5年度 事業報告

に対して、日頃から積極的に意見を出し、多職種でその時々でのベストな選択を検討することができた為、職員にとっても安心してケアに従事することができました。

また、昨年度に引き続き、ご入居者の居室の清潔保持、整理整頓を行うと共に、ご入居者の状態変化に合わせて、生活しやすい家具の配置や面会時にご入居者とご家族が一緒にくつろげる過ごしやすい空間づくりを目指しました。

行事では、感染症対策を継続しながら、花火行事や冬至のゆず湯等、季節を感じられる行事やご入居者のご希望に沿った食べ物の行事を行えたことで、生活の満足度の向上に少しでも近づけたのではないかと思います。今年度は、食べ物の行事が多かった為、今後は、食べ物以外でも楽しんで頂ける行事も実施していきます。今までにとらわれない新しい発想を取り入れながら、日々の生活の中で、ご入居者と職員が共に笑顔で過ごせる時間を増やしていきたいと思っております。

特養ハーモニー広沢 Cグループ

『 専門職の連携を生かした職場作り 』

『基本方針』

- ◆ ユニットの環境整備、ICT機器の活用、業務改善を行い、ご入居者が過ごしやすい生活、職員の働きやすい環境作りを行います。
- ◆ 楽しみの持てる暮らしの提供と、個々に適した支援体制の確立を目指します。

『総括』

新型コロナウイルスが5類に移行し、ご家族との関わりも少しずつ多くなったことから、今まで以上にご家族との関係の構築や居室内の環境整備に力を入れ、満足度の高いケアの提供を目指しました。認知症の方のBPSDへの対応等難しい場面も多々ありましたが、多職種で意見を出し合いながら、その方にとって本当に必要なことを考え、日々のケアで実践し、見直していくというサイクルを繰り返し、良い結果につながられたと感じます。

7名の方の看取り支援を行いましたが、ご本人だけでなくご家族も過ごしやすい居室の環境整備を行うことや状態に合わせたケアの変更など、迅速に対応することができたと感じます。

今後も、ICT機器を活用した業務改善等を継続して行い、更に働きやすい職場にしていくとともに、ご本人・ご家族の満足度の高いケアが提供できるよう、多職種で連携をしていきます。

ハンドベルユニット

『援助方針』

- ◆ ご入居者の心身の状態変化への気づきを増やし、他職種間で随時話し合いを行ないながら、満足度の高いケアを提供します。
- ◆ ご入居者の暮らしに合わせた支援方法や業務を定期的に見直しし、職員にとっても働きやすい職場環境を整えます。
- ◆ 暮らしの中で季節を感じ、毎月の行事等でご入居者と職員が自然と笑顔になれる時間を共有します。
- ◆ 専門職としてのスキルアップを目指し、職員1人ひとりが質の高いサービスを提供します。

『総括』

今年度は、看取りの方が5名おり、入れ替わりの多い年となりました。しかし、その中でもユニット職員一人ひとりがご入居者に寄り添い、ご入居者に合わせた対応を検討し、適切なケアを提供できました。また、コロナが5類に移行し今まで出来ていなかったご家族との面会も再開され、以前のようにご入居者だけでなくご家族との関わりが増えた年でもありました。ご家族との関わりを通して、新たな気づき等も見いだし多職種間で共有しながらチームとして支援に繋げていくこともできました。今後、更により良い支援が行えるよう、「やりっぱなし」を無くし、振り返りと見直しを行ないながらユニット職員一丸となって支援を行なっていきます。

また、ご入居者への対応だけでなく、ユニット内・居室内の環境整備にも今まで以上に目を向け快適に生活できるユニットを目指します。

タンバリンユニット

『援助方針』

- ◆ ご入居者の変化に対して早期に気づける観察力を養い、職員同士連携し迅速な対応を行ないます。
- ◆ 環境整備、業務改善を日頃から念頭に置き行動することで、職員のゆとりを生み出し、ご入居者が安心して暮らせる環境づくりにつなげます。
- ◆ ご入居者の生活歴や家族の思いを知り、その人らしさを大事にしたケアに取り組みます。
- ◆ 気づきや専門的知識・技術の向上を目標にして、事故予防やQOL向上に取り組みます。

『総括』

今年度ユニット内で2名の看取り支援を行いました。長い間ハーモニーを使っていた方とショートステイから始まり特養まで数か月の短い間であった方の支援で、どちらのご家族からも感謝の言葉を頂くことができました。ご入居者の体調も安定され比較的落ち着いてケアにあたれた1年であり、ケアの検討や業務の改善につなげることができたのではないかと考えます。

年末年始に4名のご入居が新型コロナ罹患され、そのうち3名は独歩可能な方であった為認知症を持つ方の隔離の困難さと、長い隔離生活による廃用症候群を目の当たりにしました。幸い重症化する方はありませんでしたが、日頃から感染が起こった時のシミュレーションを行う事の重要性を痛感しました。

行事についても、感染状況を考慮すると実施が困難な場合がありますが、臨機応変に行事内容を変更し実施しました。今後も臨機応変な対応を考えていき、ご入居者とともに笑顔になれるような行事を実施していきます。

来年度もコロナを始めとした感染対策について継続して進めるとともに、ご入居者のQOLの向上やその人らしい暮らしの実現についても注力し、ユニットケアについて学んだことを生かして、多職種協力し合いながら邁進していきたいと考えます。

特養ハーモニー広沢 Dグループ

『みんなの笑顔のために』

『基本方針』

- ◆ ご入居者一人ひとりに寄り添い、「心が満たされる」時間をつくります。
- ◆ アセスメントの充実をはかり、PDCAサイクルを実践しながら、根拠に基づいたケアを提供していきます。

『総括』

新型コロナウイルス感染症5類に伴い、ご家族の面会が各居室にて出来るようになり、久しぶりの家族懇親会も行うことが出来ました。各ユニット内や居室等の整理整頓もしっかり行い、面会時にはご家族へ日頃の様子を伝え、職員から積極的に会話をする機会が増えたと思います。

支援については、PDCAサイクルを意識しながら、ケアマネージャーが中心となり介護職員や看護師等でご入居者の状態が変化してもすぐに話し合いを行い、根拠に基づいたケアが提供出来ていました。

感染症流行時でも勤務調整や業務等をチームでフォローをし、安定した支援ができた一年でした。

トライアングルユニット

『援助方針』

- ◆ 日々の支援の中での会話を大切にして、ご入居者に寄り添った支援を行います。
- ◆ ご入居者が望む行事を季節に合わせて立案し、実施します。
- ◆ 会議を活用し、定期的にケアプランの評価の機会を多くしながらケアの確認を行います。
- ◆ ご入居者に最適な支援ができるよう、些細なことでも職員全員で情報共有を行っています。

『総括』

外出や面会が制限される中で、施設内で過ごしているご入居者の方にいかに季節を感じ、また日々の生活を楽しんで頂くか、ユニット職員と常に話し合い持ち、また、多職種の職員とも意見を交換し総合的に入居者にあった支援を行ないました。

行事に関しては、一番の楽しみである食事関連の行事はもちろん、花火行事やクリスマス、新年会行事でのご入居者の笑顔が多く見られ楽しい時間を過ごして頂けたと思います。今後も食事関係の行事ばかりに偏らず、外出や日常生活と絡めた内容の行事を検討していきます。

ご入居者の重度化により介助を必要とされる方が増え、ユニットご入居者一人ひとりに合わせた支援を適切に行うための業務改善や、支援方法の再検討を各担当職員が中心に行いました。また、ご家族との関わりについて定期的に連絡を取り合えることを目標にしていたましたが、ケアプランの更新時や面会時のみと限られたときにしか関わりが持てなかったため、今後は定期的な連絡を取り合いながら意向を伺い支援に繋がっていきます。

ピアノユニット

『援助方針』

- ◆ ご入居者と一緒に過ごす時間や、季節を感じられる行事を行い、ご入居者職員共に笑顔を増やします。
- ◆ コミュニケーションの時間を今まで以上に大切にし、ご入居者が安心できる声掛けを行っていきます。
- ◆ ご入居者の状態変化時には、すぐに職員間で共有し支援に繋がります。
- ◆ ご入居者・ご家族の意向に沿った支援が行えるよう、日々のケアの実施状況や満足度を確認し、さらなる質の向上に努めていきます。

『総括』

毎月行う行事の中では、ご入居者に四季を感じて楽しんでいただだけ、笑顔がたくさん見られた一年でした。中でも、紅葉外出や合同での花火大会、クリスマス会などは、ご入居者だけでなく、職員にとっても気分転換や楽しみの時間となりました。また、外国人技能実習生に母国のインドネシアのお菓子を作ってもらい、ご入居者に召し上がっていただいた時には、皆さん興味深く「美味しいね」と大変喜んでいただけました。技能実習生が来てからますます、日々のケアでのご入居者と職員の会話も増え、ご入居者の好みや、状態の変化に早く気づき、ケアマージャーを中心に支援に繋げることが出来ました。

今年度ピアノユニットでは、2名の方を看取り支援を行いました。ご本人の要望をお聞きし、最後まで寄り添い、穏やかに過ごして頂けたと思います。

今後も、ご家族との関わりを大切に、ご入居者の笑顔を引き出すことができるような支援に繋げていきます。

ケアハウスグループ（ハートフル広沢）

『アップデート』

『援助方針』

- ◆ 生活の中で楽しみを見つけ、安心して住みやすい環境を作ります。
- ◆ 職員同士信頼できる関係を作り、スキルアップを図ります。

『総括』

今年度は6名の退居があり、4名の方が特養へ入居され、2名の方はケアハウスで看取らせて頂きました。看取り介護は経験の浅い職員がおりましたが、施設全体で連携してケアの内容を確認していくことで、不安なくご入居者に最期まで寄り添うことができました。行事については感染症の影響で実施ができないこともありましたが、概ね予定通り実施ができました。今後は更に外出の機会を増やしたいと考えます。

感染症対策の緩和により、ご家族との面会や外出の機会が増えたことで、ご入居者の笑顔が多くみられました。職員からも日々の様子をお伝えし、ご家族の意向など直接情報を得られるようになった為、ケアの満足度向上につなげていきたいと考えます。

環境面においては、老朽化に伴う修繕が必要な箇所が増えてきている為、ご入居者の生活に影響が出ないよう迅速な対応を行っていききたいと思えます。

ハーモニー広沢 医務グループ

『 安穩(あんのん)な暮らしのために 』

『基本方針』

- ◆ 一人ひとりの生活課題や、不安に向き合い、ご入居者、職員の安心・安全な生活を支えます。
- ◆ 専門的な視点でのアセスメント力や、技術力の向上に努め、多職種での意見交換を行いながら、ケアの質の向上を目指します。

『総括』

令和5年度は新型コロナウイルスが5類感染症になったことを受け、施設での対策も状況に合わせて変更しました。職員が適切に迅速に対応できるように、新たな決まり事や、改善された点をわかりやすく伝えながら、標準予防対策（スタンダードプリコーション）の徹底を行いました。今後も状況に合わせた対応ができるよう、連携、状況共有を行っていきます。

今年度は23名の方の看取り支援を行わせて頂きました。ご家族より「ここよかった」とのお言葉を多数頂き、ご入居者、ご家族に寄り添い、状態に合わせたケアを多職種で連携して行うことができた結果であると考えます。今後もACP（アドバンスケアプランニング）に基づき、日頃の状態報告やカンファレンス等への参加を通して、ご入居者、ご家族の意向を大切にしながら、チームとして生活を支えていきたいと思えます。

ハーモニー広沢 栄養グループ

『 食を通じて、健康を支えます 』

『基本方針』

- ◆ 一人ひとりの健康状態に合わせた食事の提供で元気と健康を守ります。
- ◆ できるだけ最後まで口から食べていただけるよう努力します。

『総括』

栄養マネジメントにおいては、各部署に多く出向き、ミールラウンドにより一人ひとりの健康状態や嗜好の把握に努めました。カンファレンスに参加し、多職種と連携を取りながら、個々の状態に合わせた食事提供を迅速、柔軟に対応することが出来ました。

また看取りの方にも職員間で話し合いを重ね、お好きな物を最後まで口から食べて頂けるよう、多職種と協力して行えました。

施設共通献立は、メニューの種類も増え、新しい料理も好評です。伝統行事や旬の食材を取り入れた献立は、季節感や食事の楽しみを感じて頂くことができ、郷土料理

を取り入れることで、会話もはずみ、楽しい雰囲気です召し上がっていただけています。施設共通献立は施設間でも情報・意見交換ができるようになり、より良い献立作りに繋がっています。

厨房での提供方法も、美味しくかつ効率的に提供出来るよう、その都度見直してきました。食材の値上げが続いていて苦しい一年でしたが、残菜の確認や調理の工夫など食材の無駄をなくす努力を行い、食の楽しさを感じていただけるようメリハリをつけた食事提供を心がけました。

ハーモニー広沢 ショートステイグループ

『一人ひとりの満足を目指して』

『基本方針』

- ◆ ご利用者一人ひとりに合わせた関わりをしていきます。
- ◆ 居心地の良い環境にします。

『総括』

令和5年度は『一人ひとりの満足を目指して』というスローガンを掲げ、運営を行いました。ショートステイご利用者の重度化や認知症などにより見守りが必要な方が多くいる一方で、比較のお元気な方のレスパイト目的や退院後のリハビリ目的などの利用が多くなり、今まで以上に機能訓練のニーズが強くなった一年でした。

ニーズの変化に対しては、『一人ひとりの満足』という視点に重点を置き、脳トレや集団体操の実施、季節を感じて頂ける行事を一年を通して行い、ご利用者全員が楽しみを感じていただける取り組みを行いました。機能訓練の希望のある方には、リビングでの体操や口腔体操に加え、機能訓練スペースで個別の歩行訓練やウォーターベッドマッサージ器の活用を積極的に行いました。

また、今年度も2名の方の看取り支援に関わらせていただく中で、ご利用者ご家族の思いを大切にするために、アセスメントの重要性を強く感じました。ご本人、ご家族の希望をしっかりと踏まえ、多職種で共有をし、かかわり方を相談しながらすすめることで最期までその人らしく生活をしていただくことができました。

今後もショートステイではたくさんのお客様にそれぞれの目的でご利用していただけるよう、幅広い知識と技術を持ってお迎えしていきます。

ハーモニー広沢 デイサービスグループ

『誇れるサービスを未来まで』

『基本方針』

- ◆ 感謝の気持ちを持って、挨拶や場面に応じた心通うかかわりを大切にします。
- ◆ 専門技術の向上を通じて、口腔管理・栄養管理・機能訓練を一体的に実施し、自立支援・重度化防止のための、効果的なケアを提供します。

『総括』

令和5年度は、ご利用者の満足とおもてなしをより意識し、礼節面と合わせてご利用者に関わることができました。また、職員間でも感謝の気持ちを言葉で表すなど、チームワークの強化が図れました。

サービスにおいては「運動、口腔、栄養」のサービスを一体的に行うことに重点を置き、ご利用者自身が効果を実感できるような内容を展開しました。

昨年度より要支援・要介護1のご利用者数が増えたことにより、デイサービスの利用目的が変化し、運動や口腔機能の維持、向上を目的に利用される方が多くなりました。それに対応するためプログラムの再編を行い、ご利用者が自発的に取り組めるように、歩行訓練と筋トレ機器を組み合わせたサーキットメニューの展開を行いました。令和4年から取り組んでいるノルディックウォークも定着し、屋外での体操も継続して実施することで、ご利用者の運動意欲や気分転換を図るだけでなく、自宅での運動の意識づけにも繋がりました。

口腔の取り組みでは、毎日の口腔体操や口腔ケアの実施を始め、歯の模型を使用した「歯や舌の磨き方」、「入れ歯の手入れや外し方」の指導も実践し、口腔衛生に対する意識づけを行いました。

栄養の取り組みについては、管理栄養士が個別にアセスメントを行い、ご自宅での食事に関する聞き取りや食事の回数、体重の増減を含めた栄養指導を行い、食事や栄養について定期的に確認し、食の行事で調理内容を提供することで、ご利用者の栄養についての関心を高めることができました。

これらの取り組みは、厚生労働省に提出するLIFEにデータ入力し、PDCAサイクルにのせた支援に繋がりました。今後は、姿勢解析アプリを活用した客観的な指標からの機能訓練計画作成や、SNS（インスタグラム）での情報発信を進めていきます。

ハーモニー広沢 ホームヘルプサービスグループ

『もっと安心、もっと笑顔に』

『基本方針』

- ◆ ご入居者の自立支援「本人の望む生活」の実現に向け、ご本人の意思及び人格を

令和5年度 事業報告

尊重し、常に相手の立場に立ったサービスの提供に努めていきます。

- ◆ 各種サービス機関との情報共有を密にし、担当者会議等を通してご入居者、ご家族の声（思い）にしっかりと耳をかたむけ、笑顔と安心のサービスを速やかに提供いたします。
- ◆ ご入居者に最良のサービスが提供できるように、自己の研鑽に励みサービスの質の向上を図ります。

『総括』

新規利用者や状態変化に伴う計画変更の多い一年でしたが、年度基本方針を意識しご入居者やご家族の声にしっかりと耳を傾けることで、サービスを迅速に提供してまいりました。ご入居者に最良のサービスが提供できるよう、多職種との連携を強化しサービス導入後もご入居者のご意向、サービス提供の改善点や満足度をしっかりと確認しケアマネージャーと情報共有してきたことが、サービスの質の向上につながっていると考えます。今後も基本方針を実践することにより、ご入居者の満足度向上とサービスの質の向上に向けていきたいと思っております。

ハーモニー広沢 居宅介護支援グループ

『あなたの声を形に』

『基本方針』

- ◆ 住み慣れた地域で、その方らしい生活が最期まで続けられるよう、私達だから出来るお手伝いをしていきます。

『総括』

令和5年度はご利用者・ご家族の声を聴き、支援内容につなげる＝（イコール）形にすることをより意識しました。なかなか声を発していただけない方でも、事業所内の経験豊かなチームメンバーで話合うことにより、ご利用者のニーズに対応する＝（イコール）形にすることが出来ました。

令和5年5月より新型コロナウイルス感染症が5類になり、病院等の対応も緩和され、病院等との連携や入院時や退院時の支援などの業務が通常通りできるようになり、支援の幅も広がった一方で、今までの業務を見直し効率化を図ることも出来ました。

介護保険の窓口機能としての役割を意識する中で、丁寧な対応を目標に全員で協力して業務に取り組んできました。ご利用の希望が多く件数が倍増したことで、目の前の業務に追われることが多くありましたが、研修等にも積極的に取りくみしました。今までやってきたことを整理し、業務の効率化・働き方改革の実現のため色々な方法を試してチャレンジを始めた1年でした。

サービス付き高齢者向け住宅 グレイス広沢

『 「安心のサービス」と「優れた居住環境」を提供いたします 』

『運営方針』

- ◆ 職員一人ひとりがご入居者の思いに寄り添い、ご入居者が笑顔で過ごすことが出来るよう、他部署・他職種と連携し、各種サービス提供と環境づくりに取り組みます。
- ◆ ご入居者お一人おひとりの思いを実現できるようご本人の意向に合わせた自立支援を行い、生活満足度の向上を目指します。
- ◆ 感染症や災害への対応を万全に備え、ご入居者、ご家族の安心・安全なサービスの確保に努めます。
- ◆ 地域に密着した施設を目指します。

グレイス広沢 生活支援グループ（サービス付き高齢者向け住宅）

『 困りごとには迅速に対応し安心のサービスを… 』

『基本方針』

- ◆ 毎日が笑顔で過ごせるように関係機関と連携し安心したサービスが提供出来るよう努めていきます。
- ◆ 毎日が心地よく過ごせるよう「優れた居住環境」を提供いたします。
- ◆ 感染症対策を継続的に行えるよう、定期的に研修を行なっていきます。
- ◆ グレイスホールを地域の皆様へ開放し、気兼ねなく活動が図れるよう環境づくりに努めます。

『総括』

新型コロナウイルス感染症の感染症法の位置付けが5類に移り、生活様式に変化が起きた一年でしたが、依然として時期により新型コロナウイルスの流行があったため、ご入居者、職員に対し状況に合わせた感染症対策の協力をしていただきました。施設内での感染症流行はありませんでしたが、引き続き感染症に対しては、慎重かつ迅速な対応を行ってまいります。また、面会等についても感染症状況に合わせた柔軟な対応を行い、ご入居者の生活の張りやご家族との関係性の構築に努めました。同時に感染症対応について、ご入居者、ご家族に対し状況に応じた説明を行った結果、ご理解を得られました。

食事面では、「グレイスの日」や「ひとり鍋」などのプチイベント食を導入し好評のご意見をいただきました。また、暑い時期に実施したかき氷行事等についても季節感を感じていただけたと思います。今後も提供方法を検討しつつ、ご入居者が楽しめ

るような新たな取り組みも検討していきたいと考えます。

グレイス広沢 ホームヘルプサービスグループ

『自分らしい生活のために…目配り・気配り・思いやり』

『基本方針』

- ◆ ご利用者の望む生活を支援します。
- ◆ 安心できる生活を提供します。
- ◆ 信頼される事業所を目指します。

『総括』

令和5年度も引き続き感染対策に注意を払い、訪問時にはご利用者の様子を最初に伺うなどし、変化が見られた場合には、迅速に関係各所連絡を行うなどの対応を行いました。その結果、症状が悪化する前に医療機関への受診につながるなどできました。

しかし、長く続いていた行動制限のため、ADLの低下や状態変化等から入院や施設入居によりサービスを終了される方もいらっしゃいました。今後は、新規ご利用者の獲得に向けて、居宅支援事業所、地域包括支援センターへの宣伝活動を継続することが必要と考えております。

また、年間の研修については、感染対策を行い、伝達研修等を中心として実施しました。今後は、コロナ前の生活に戻りつつあるため、専門職としての技術向上を図る研修などに取り組んで参ります。

グレイス広沢 定期巡回・随時対応型訪問介護看護グループ

『介護と医療がつながって笑顔で暮らせる毎日を』

『基本方針』

- ◆ 住み慣れた地域で安心した在宅生活を送れるよう支援していきます。
- ◆ 介護・看護・地域との連携を図り24時間体制で支援していきます。
- ◆ 状況に応じた感染症対応が行えるよう演習を行い、実践できるよう取り組みます。

『総括』

新型コロナ感染症も5類となり、通常の日常生活に戻りつつありますが、高齢者の間では感染後重症化になることも心配される為、全職員が連携先の看護師を講師として、正しい手洗い手指消毒やガウンテクニックの指導を受けました。また、職員間でも安全に感染対策が行えるように声を掛け合い、感染症予防に努めてまいりました。その結果、感染症の拡大を未然に防ぐことが出来たように感じます。

また、ご利用者の日常生活については、訪問看護師との連携で行うアセスメントやモニタリング、スタッフ会議内でのカンファレンスで必要な支援を検討し、24時間柔軟に対応ができたと考えています。

今後も地域での安心安全な生活を提供できるようケアマネージャー、訪問看護、サ高住、ケアハウスとの連携や情報の共有を図り、サービスの提供に努めてまいります。

グレイス広沢 訪問看護グループ

『 在宅で自分らしい生活を継続し、ご利用者やご家族が
笑顔で安心した療養生活を送れるよう支援します 』

『基本方針』

- ◆ ご利用者が住み慣れた自宅で、自分らしい生活を送れるよう、心身機能の維持回復ができるよう支援します。
- ◆ 専門職によるリハビリを通して筋力維持、生活機能の維持ができるように支援します。
- ◆ 関係市町村、地域の保健・医療・福祉サービスなど他職種との連携を密に行い、ご利用者の生活に必要なサービスの提供に努めます。
- ◆ 職員の資質向上を目指し、個人研修計画を作成し、専門職としての研修の参加と施設内研修を実施します。

『総括』

ご利用者の介護度の重度化に合わせて、ヘルパー事業所と連携をしながら、ご利用者への支援を行いました。また、住み慣れたご自宅で安心した生活を送れるよう努めました。また、理学療法士による訪問看護リハビリでは、専門職によるリハビリの提供を行うことで身体機能が向上し、サービスの利用がとても楽しみとの声をいただきました。そのため、ご自宅に訪問して生活環境の把握を行いながら、支援を行う必要性や重要性に改めて気づくこともできました。

感染症対策については、ご利用者への連絡や関係各所への連絡の他、法人内各施設との協力で感染症予防対策を迅速に行い、感染拡大を防止することができました。今後も引き続きご利用者の精神面や体調面の管理に努めていき、住み慣れたご自宅で体調を整え、安心した生活を送れるよう支援していきたいと考えております。